

次号予告

特集 シンポジウム「専門職としての倫理」

医療の構造と医療者の倫理……………国療東京病院名誉院長 砂原茂一
専門職の倫理（ひとつの考察）……………東京都立大学 石村善助
日本理学療法士協会の倫理規定とその検討過程

……………金沢大学医療技術短大 奈良 勲
作業療法の倫理綱領とは……………国療東京病院付属リハ学院 矢谷令子
守秘義務（身体障害の場合）……………筑波大学社会医学系 福屋靖子
守秘義務（精神科の場合）……………東海大学 精神学 橋本雅雄
教育に対する専門職団体の規制……………加納岩総合病院 富岡詔子
チームワークにおける倫理……………東京大学 上田 敏

<総合討論> 専門職としての倫理

砂原茂一・石村善助・奈良 勲・矢谷令子・富岡詔子・（司会）上田 敏
とびら PT・OT の将来にむけて……………金沢大学医療技術短大 立野勝彦
講 座 痛みの生理学 3. 内因性疼痛抑制機構……………昭和大学 武重千冬
ブロード 抗癌剤の進歩……………癌研究所 小川一誠
リハビリテーション・日本障害者リハビリテーション協会……………玉木 修
インフォメーション 全国身障運転者協会連合会……………全国身障運転者協会連合会
全国難病連絡協議会……………佐藤エミ子
障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会
……………障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会

編集後記

最近の論文の内容には、臨床経験・研究の積み重ねがにじみ出ているものが多く、一編集者としても本当にうれしく思っている。これは、我が国に PT・OT が誕生してから 17 年という時間により生み出されたものであるが、その時間を無駄にせず不可能に近かった問題の山を、黙々と地道に歩み続けてきた成果の現われと信じている。

今月号の特集は「脳卒中」である。山下氏らによる「脳卒中のための下肢装具」の論文は、我が国における最新技術を代表するものとしてすぐにも PT 教育に反映したい内容である。白井氏らの論文「脳卒中者の心理・社会的予後」は、精神的・心理的側面をわかりやすくまとめられており、脳卒中者の心理特性についてもふれておられる。河本氏は、「老人片麻痺患者への手工芸の適用」についてまとめて下さった。在宅ケアなどで OT に相談できない PT のためにも非常に参考になろう。今井氏には「片麻痺のファシリテーション・テクニッ

ク」について紹介して頂いた。やればやる程深みのあるファシリテーション・テクニックの PNF についての知識の整理や、新たな挑戦のための参考にして頂ければと思っている。

いろいろと模索しながらも、PT が PT として、OT が OT として実施することにより得られるものは、いつのまにか PT 独自のもの、OT 独自のものとなっていくようである。そしてそれが土台となっていくのであろう。人々はその土台の上に築かれた家に住んでみて、我々に、それが必要なものか否かを教えてくれる。

世の中の価値観の変遷に伴い、人々のニーズは刻々変化しつつある。「とびら」において大内氏が指摘されているように重度・重複障害児と PT・OT との係わりについては、筆者も、小児に限らず成人・老人においても、我々がもっと係わりを持つことの必要性の高まりをひしひしと感じている次第である。

養成校も数がふえ、今年は、社会のニーズに即応した教育内容の充実が期待されよう。
(福屋靖子)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長

五味 重 春
埼玉県障害者リハビリセ
ンター所長

砂原茂一
国立療養所東京病院名誉院長

津山直一
東京大学教授・整形外科

水野 祥太郎
川崎リハビリ学院長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上田 敏
東大リハビリ部

荻島 秀 男
ペインリハビリテーシ
ョニクニック高島平
整形外科

大喜多 潤
兵庫県リハビリセンター

寺山 久美子
都心身障害者センター

富岡 詔子
加納岩総合病院

奈良 勲
金沢大学医療技術短大

福屋 靖子
筑波大学

松村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

安達 克 己
池田 俊 雄

伊東 元
宇都宮 初 夫

大丸 幸
金 子 翼

鎌倉 矩 子
紀伊 克 昌

木村 信 子
駒沢 治 夫

佐藤 肇
嶋田 智 明

鈴木 明 子
関 昌 家

高橋 正 明
中屋 久 長

橋元 隆
藤 沢 しげ子

矢谷 令 子
山下 隆 昭

(担当 細田・西塚)